

父親となる準備

Göran Wimmerström

1990 年、私はこれから父親となる人のトレーニングを引き受ける気があるかどうか尋ねられた。私は以前に、1 度の妊娠と 1 度の出産とに関係しているだけで、経験はほとんどなかったため、時間をかけ一生懸命に考えた。その時の考えは、1~2 ヶ月の内に初めての子どもが生まれる男性たちを集め、彼らに出産後の生活の変化とできるだけ早く子どもとの絆を持つことの重要性についてのある程度の識見を与え、そして、会ってお互いに自分たちの考えや感情を表現するチャンスをもたせようというものだった。

男性たちには、家族が 2 人から 3 人になった時に起こる彼らの生活の変化について、わずかな情報しか与えられない。彼らは通常本を読んだり、他の男性に尋ねたりはしない。さらに、彼らの父親は今日の父親が担っている役割を経験していないので助けにはならない。

我々の父親は親としてのトレーニングを受けていないし、出産にも立ち会っていない。そして、明らかに父親の出産・育児休暇も与えられていなかった。したがって、父親としての知識の継承はほとんどない。私は人生最大の一転機の時期に立ち至っている男性たちのフォーラムをつくることによって、まさしく、子どもにとってどんなに彼らが重要な存在なのかを男性たちがわかり、彼らが父親の出産・育児休暇（必ずしも雇い主や妻がそれを望んでいなくても）をとり、とりわけはじめて父親になることへの迷いや恐れ等をもつのは決して自分だけではないと気づくことを期待した。

その頃、私には 400 人以上の父親の休暇取得者を対象とした大規模な研究を実施していた同僚がいた。彼は対象者に初めての子の誕生を待っている人たちにどんなアドバイスをしたいかについて質問していた。彼はたくさんのアドバイスを受け取った。そして、私はこれから父親となる人のトレーナーとして、これらの男性たちが語ったことを利用できると思った。最も一般的に繰り返されたアドバイスは、「あきらめるな」「しつこく粘れば良くなる」であった。

一人の助産婦がこれから父親となる 8 人の男性のグループを組織した。私は 1990 年暮れのある晩に、これからトレーニングをする彼らと会った。彼らはすべて 1~2 ヶ月後に初めての子どもの誕生するのを待っている人たちで、私は「調子はどうか」と尋ねてみたが、

全員が「大丈夫、具合はいい」と答えた。かつて私がこれから父親となる 800 人程の人たちに質問した時も、返ってきた答えは同じだった。誰一人として、これから起きることについて心配したり、緊張したりしている感情を述べなかった。私は、お互いの心の奥にある感情を共有するために、私たち男性にとって最善の方法は、それらを声に出してグループメンバーに話すことであると考えた。そこで、私は父親というものに対する自分たちの感情について、ほんの少し話をしてみたいという考えを彼らに説明し、8 人の内の一人の方を向いて言った。「どうですか、一番に話してみませんか?」と。その男性はパニックのようなものに襲われたようで、しばらくの間何も言わず、しかし、それで落ち着きを取戻して、自分の腕時計を見て、我々に別の会合があることをすっかり忘れていたことについて話し、部屋を出て行ってしまった。他の 7 人はその部屋にとどまり不安な感情を高めていた。私は、何らかの形式で指導する以前に何か成すべき方法を持たない限り、この方法で始めることはできないと理解した。

助産婦たちは、これから父親となる人たちに私のミーティングへの参加を勧めることを引き受けてくれ、そして、初めての招待状には「マンシェントラムから G Öran Wimmerström が、父性に対する感情、男性の目から見た出産、セクシュアリティ、男の役割、そして父親の役割について、皆で話をしようと考えている」と書いた。通知は、薔薇色の紙に花、鴉、風船を飾って印刷された。それは 50 人の男性に送られ、1 人が参加した。その後私たちは嘘をつくことにした。この時、助産婦たちは「両親保険を通じてお金を節約できる最良の方法について話してくれる G Öran という人がやってくる」というビラを発送した。その通知は 13 人の男たちに送り、そして全員が参加した。最終的には、両極端間の妥協点で招待状をつくることとした。

自分自身の生活を持つ父親

1991 年の間プロジェクトは続き、全部で 120 人ほどの父親になろうとしている男性あるいは父親になったばかりの男性と出会った。私は、初めてのミーティングで男らしさ、セクシュアリティ、出産、子どもが生まれた後の 1 年間の生活について話をした。私は、自分なりの方法で子どもとの絆を持つことの重要性、仕事を減らすことの重要性、彼ら自身が自分のために行うのと同じように、彼女も自分の必要に応じて何かすることが必要であるという認識の重要性、そして夫婦が子守りを見つけることと子ども抜きで何かをすることについての重要性についてたくさん話をした。

私はセックスライフの変化とそれを再開する方法、子どもとの関係におけるお互いの方法を受け入れることの重要性、父親の出産・育児休暇をとることの利益というような問題

をみつけた。最初のミーティングで残った時間は一般的なディスカッションと、話を聞いて生じた質問に費やされた。

そのミーティングは、すべての男性がもう一度集まることを同意して終了した。2回目のミーティングまでには、彼らは皆父親になっていた。彼らはすべて、出産、出産後に起ってくることで頭がいっぱいで、彼らの話の大部分が、全員、同時に起ったことについてであった。すなわち彼らははっきりともう一度集まることを望んでいた。そして私たちは男性たちがやめる準備ができるときである子どもが5~6ヶ月になるまで、月に1回会った。彼らの何人かはお互いに友達を作り、色々な方法で集まっていた。しかし、彼らの多くは赤ちゃんが生まれたばかりでもはや時間がなく、グループの活動中止を望んでいた。グループは4~15人参加と様々で私たちは夕方に集まった。私たちが話し合った問題は、控えめに言っても、実に様々なものがあった。耐えられない義母のことから、産後初めてのセックスのことまであらゆることを話し合った。子どもに関しては愛情と怒りの両方の様々な感情が表現された。葛藤を解決するための方法、子どもとの絆の持ち方、子どもの考えることや成人として発達させることの重要性についてたくさん話し合いがあった。

家庭問題を抱えている人もいた。何人かは家族と一緒に住んでおらず、離婚について考えていたり多くの不和を抱えていた。ほとんどすべての人が出産・育児休暇をとる努力をするべきだと同意した。以前にはそれを考えていなかった人さえも。初めの1年間に、家族の近くにいるために家を建てるといったような将来設計を延期した人もいた。

女性に敵意はもたない

女性について特別悪口を言うようなことはなかった。男たちは、家族のための責任と、個人的な要求を引っ込めるということについて多く話しをした。

プロジェクトから半年後、女性への講義を始めなければならなかった。96人が参加し、その多くは妊娠中あるいは最近母親となった人で、彼女たちは私が男性達としてきた内容に皆驚いていた。彼女たちは夫のことに関心を持ってはいなかった。ただ、彼女たちは、夫たちを理解するのは難しいと認識したようだった。男性たちはミーティングの後帰宅し、セックスや自分の感情について話し、コミュニケーションを持った。女性たちは、男性はこういうものだと思っていたものとは違い、もし私がGöranであるなら、実際彼らに何を言ったのかを知りたいと思っていた。女性たちとの夕は成功で、彼女たちは自宅に戻り、家庭の中でのコミュニケーションがよくなった。プロジェクト終了時に尋ねると、ほぼすべての男性が父親となるためのトレーニングには満足したと答えた。彼らは彼らを援助し、安心させる情報や考え方を与えられた。そして、彼らが同じ立場の他の男性と出会

うことをも可能にした。彼らの多くにとって、最も重要だったことは、彼らがしたのと同じような方法で、他の人も考えたり感じたりしているということを知ったことであった。今や女性もまた、男連中や父親たちともっとバランスをとるべきだと考えるほど積極的であった。助産婦たちは、より活発な親のグループを支援する仕事がより楽しみになってきたと考えていた。そのプロジェクトに参加した男性では61%が1年後に父親の出産・育児休暇を取得し、日数は平均54日間だった。調査時、多くの男性は父親の出産・育児休暇を取得中で、さらに何人かはこれから取らなければならない人であり、おそらく、後の集計ではより高い数字を示すと思われた。

そのプロジェクトが実施された1990年の統計では24%で32日間であった。これはプロジェクトが実施された地域の全人口上では、父親の出産・育児休暇取得において8%増ということの意味しているが、これらの期間中、スウェーデンでは同様の増加は見られなかった。加えて、少数の夫婦は、子どもが生まれてから4年以内に離婚していた。

1993～1994年の間、新しい父親訓練のプロジェクトがストックホルムで実施された。前述したものとの相違点は、男性たちのミーティングが出産前と出産後の2回であるということで、約350人の男性がプロジェクトに参加したが、まだ開始したばかりの試みなので明確な評価はできていない。1994年4月、スウェーデン社会保健省の機会均等部門は、スウェーデンの4地域／地方においての父親へのトレーニングプロジェクトを開始するイニシアティブをとった。今、私はトレーニング中で、スウェーデンの約90人のインストラクターと付き合っている。彼らは社会保健省の管理下で、1994年8月に仕事を開始し、1995年12月まで続けるだろう。このトレーニングは異なった地域で、地域的に運営されていくことだろう。

インストラクターは、私が先述したことと同様な経験に直面している。彼らはこれから父親となる人や最近父親となった人たちと3～4回会う。しかしながら、その進歩は一部の農山村地帯において少しずつしかみられていない。

これにもかかわらず、インストラクターのすべてが自分たちの仕事が重要であると感じている。

彼らの考えでは、父親の出産・育児休暇を取得するスウェーデンの父親がより増加することは、まさに男性が子どもとの密接な関係を作り、その結果、より良い関係となり、良い男性役割モデルを子どもに与えるのを助けるチャンスを増やすということとなる。そしてまた、子どもにだけでなく、妻にとっても、彼女の職業生活に積極的な影響を与えるチャンスを作り出すことになる。

(小林由美)